



明治大学体育会ソフトテニス部

OB・OG・保護者の皆様方のたくさんのご支援に感謝！！



2024 年度事業報告 資料提供 協力 明大スポーツ新聞部

ソフトテニスオンライン

”前へ”常に挑戦する 明治大学ソフトテニス部



加納明彦明治大学体育会
ソフトテニス部部长

明治大学は、封建的な社会から近代社会へと変容する時代に、個人の権利を確立し、自由な社会を実現するために、フランス法学を教授する明治法律学校として、1881（明治14）年に創立されました。学部増設とともに総合大学となった現在でも、創立時からの伝統によって確立された建学の精神「権利自由、独立自治」に基づき、自由と自治の精神を養うことを明治大学の理念としています。

この基本理念を140年にわたり受け継ぎ、どの時代にも社会をリードし、新しい価値観を創造し、挑戦してきました。さらに、21世紀の未来を見据え、明治大学は「世界へ」「個」を強め、世界をつなぎ、未来へ」を大学の基本理念として付加するとともに、「知の創造と人材の育成を通じ、自由で平和、豊かな社会を実現する」を使命とし、教育・研究・社会貢献等に取り組んでおります。

チーム目標

全日本大学対抗戦の優勝を目指します。
部活動を通して個性豊かで社会に貢献できる人を目指します。

部員の心構え

- ◆文武両道
- ◆努力目標は高く大きく
- ◆言葉ではなく行動で範を示す
- ◆何事にも真摯に立向い責任を全うする
- ◆コミュニケーション能力の拡充
- ◆規律の徹底

指導者

総監督 櫻井智明

（一社）日本学生ソフトテニス連盟 会長
関東学生ソフトテニス連盟 会長

男子監督	北本 英幸	平成 3 年卒
女子監督	太田 博勝	昭和 52 年卒
コーチ	豊田 裕樹	平成 13 年卒
コーチ	成田 悠	平成 25 年卒
トレーナー	関根 諒太	中村 裕美

トテニス部は、令和7年には創部百二十周年を迎えます。創部以来、世界選手権大会優勝をはじめ多くのアスリート並びに指導者を送り出し、挑戦することが未来を切り開く「前へ」を合言葉に輝かしい歴史を築いてきました。

平成30年・令和5年に男子が令和4年に女子部が全日本学生大学対抗戦の優勝を果たしました。

現在、部員は男子21人、女子9人と少数精鋭のクラブとして全国に存在を示しております。

今後も全日本大学対抗戦優勝を目標に、「常に挑戦すること」「情熱をもって取り組むこと」を念頭に部員一同練習に励んで参りますので、皆様方のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

チーム理念

“本質への迫及”と“限界への挑戦”

斉藤孝弘監督の教え「感謝と思いやりの行動」こそ真のアスリートを育てる秘訣である。さらに「本質への迫及」「限界への挑戦」を常に指導された。本質への迫及とは迷ったら初心の戻ること、限界への挑戦は自分で限界を作らず、苦しいことにも選手自ら自発的に進んで取り組むことです。

斉藤監督は明治大学ラグビー部の故北島忠治先生を尊敬しており、ラグビー部の理念である「前へ」の影響を色濃く受け、基本に忠実である「本質への迫及」と前へのチャレンジ精神である「限界への挑戦」という理念を築き上げ学生の指導にあたりました。これが今でも明治大学体育会ソフトテニス部の理念として引き継がれています。



2024.9.15 全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会 男子ベスト8、女子3位

関東オープン

ベスト16
西山・西東、前田・中谷

◆4月14日・21日
女子 狭山市智光山公園テニスコート
男子 白子町・駒澤オリシピック公園
テニスコート

今年度初めての大会、毎年大学生の春合宿が終わり、学生の上位進出が目立つ大会だが、昨年のアベック優勝から、男女とも最高ベスト16と悔しい結果となった。

男子 中村・岡田 ベスト16
女子 西山・西東、前田・中谷 ベスト16

▼男子戦績
1 回戦
間庭・木内、貝瀬・大石
2 回戦進出
小宮・中原、是枝・半澤、
藤原・大滝
3 回戦進出
辻花・藤崎
4 回戦進出
中山・佐藤、金山・大辻
5 回戦進出
米川・上田
ベスト16
中村・岡田
▼女子戦績
2 回戦進出
日高・大野
3 回戦進出
武田・北川

東京6大学春季リーグ

◆4月20日・21日 東京6大学春季リーグ戦（早稲田大学テニスコート）
男子4位 女子優勝
新入生が加わった初めての団体戦で女子が見事優勝した。

男子春季リーグ戦	法	早	明	立	慶	東	勝点	順位
1 法政大学		3	⑤	⑤	⑦	⑦	4	2
2 早稲田大学	④		3	⑤	⑥	⑥	4	1
3 明治大学	2	④		3	⑤	⑥	3	4
4 立教大学	2	2	④		⑥	⑥	3	3
5 慶應義塾大学	0	1	2	1		⑦	1	5
6 東京大学	0	1	1	1	0		0	6



女子春季リーグ戦	早	明	立	法	慶	東	勝点	順位
1 早稲田大学		1	1	③	③	③	3	3
2 明治大学	②		③	③	③	③	5	1
3 立教大学	②	0		③	③	③	4	2
4 法政大学	0	0	0		③	③	2	4
5 慶應義塾大学	0	0	0	0		③	1	5
6 東京大学	0	0	0	0	0		0	6

関東学生シングルス選手権大会

関東学生春季1部リーグ戦

◆5・3・4 関東学生シングルス選手権大会（國學院大学・早稲田大学・立教大学・川口市青木町公園総合運動場）

男子 米川結翔ベスト8 女子中谷さくら、前田梨緒ベスト16でインカレ出場を決める

男子1回戦
貝瀬煌、大辻伸彬、大石征治、中山秀哉
2 回戦進出
間庭堅人、藤原知洋、木内陸人、是枝元希、中原壮琉
3 回戦進出
半澤寧大、佐藤亜結夢、金山勇波、大瀧展功、小宮将吾、上田大泰、辻花陵、中村悠峰
4 回戦進出
藤崎広大
5 回戦進出
岡田侑也
ベスト8
米川結翔
女子4 回戦進出
武田美咲、大野菜、日高里歩、西山なつみ
ベスト16
中谷さくら、前田梨緒



◆関東学生春季リーグ戦
5月11日12日（白子サニーテニスコートほか）
1日目 風が強く吹く中開幕した関東学生春季1部リーグ戦。男子部は日体大、早大戦ともに一時リードしたが強風に苦戦し2-3と惜敗を喫する。3 回戦の国学院



大戦では修正力の高さを見せ、終始主導権を握り勝利した。女子部は流れをつかめず3連敗となった。

男子初戦は昨年度秋季リーグで敗れた日体大。米川結翔主将(商4Ⅱ尽誠学園)が「初戦は明大の実力を発揮させてもらえなかった」と語るようにブレには硬さが目立ち、接戦に持ち込むも2-

3で初戦を制することができなかった。続く2戦目の相手は早大。1番手の岡田侑也(農2Ⅱとわの森三愛)・中村悠峰(営2Ⅱ能登)はサーブミスで

てしまう。2番手の辻花陸(営3Ⅱ能登)・上田泰大(商2Ⅱ尽誠学園)ペアは序盤、相手の強打に苦戦するもコースを突く正確なショットでサーブブレイクし流れをつかむ。

その後、サーブから相手を崩しボレーにつなげ得点を重ねていき5Ⅱで勝ち切った。3番手の米川もサーブレシーブから積極的に強打を放ち、相手を寄せ付けず4Ⅱで制す。勝てば勝利が決まる4番手は金山勇波(営4Ⅱ霞ヶ浦)・大辻伸彬(農4Ⅱ尽誠学園)ペアが登場。コアーストサーブから攻めて、そこから仕掛けることを意識した(金山)とコースを突いたサーブと大辻のボレーを軸とした攻撃を展開し相手の大将に食らいつく活躍をするも、相手の強打に崩され2Ⅱ5で敗れてしまう。勝敗は藤崎広大(法1Ⅱ尽誠学園)・佐藤亜結夢(法3Ⅱ東北)ペアに委ねられた。サーブミスで上がりとなり、気迫あるブレに粘るも相手の強烈なショットに対応できず1Ⅱ5で敗れた。

連敗で迎えた第三戦の相手は国学院大。風の影響で苦戦を強いられていたダブルスを5Ⅱ3で勝ち切ると流れに乗った明大は3Ⅱ1と試合を優位に進める。勝利の懸かった4番手の岡田・中村ペアはピンチを連携の取れた攻撃で乗り越えんとトップスピントスライスを相手手を翻弄(ほんろう)。後半は終始リードした展開で5Ⅱ1と勝利を収める。これにより明大は3Ⅱ1と勝ち越した状態で初日を終えた。

女子部の初戦は昨年度の秋季リーグで接戦の末、勝利した東女体

大。1番手は前田梨緒(商1Ⅱ須磨学園)・大野菜(法2Ⅱ昭和学院)ペアが登場。終始安定した試合運びで5Ⅱ2と勝利をつかむ。流れに乗りたいた2番手は青松淑佳(政経3Ⅱ昇陽)がサーブミスエースから得点を重ね、リードしていくも相手の多彩なショットに対応できず傾きかけた流れを戻され3Ⅱ4と逆転負けを喫した。3番手の中谷さくら(政経1Ⅱ須磨学園)・日高里歩(法4Ⅱ昭和学院)は積極的な攻撃で主導権を握ったかに思えたが突然の強風にペースを乱され精彩を欠き4Ⅱ5と試合を落とし初戦を1Ⅱ2で敗れた。

2回戦は国学院大との一戦。1回戦とダブルスのペアを替えて臨んだ一戦だったが、両ダブルスともに敗北を喫し1Ⅱ3で試合を終えた。3回戦の相手は日体大。大野・日高ペアが1番手でコートに上がるも、相手にサーブブレイクを許し苦しい試合展開のまま0Ⅱ5で敗れる。一矢報いたい3番手は期待の1年生中谷・前田ペアが登場。息の合った連携から積極的な攻撃を展開するも、相手のカットサーブに終始対応できず4Ⅱ5と試合を落としした。

「早坂春佑」

昨年度、関東学生春季1部リーグ戦(春季リーグ戦)優勝を成し遂げた男子部は2連覇を狙い臨んだが、1勝4敗の不本意な結果で今年度の春季リーグ戦を終えた。

また女子部も白子町の海風に苦しみ、男子同様5位に終わった。

前年度王者の春は悔しいものになった。男子部は初日に日体大戦、早大戦に敗れ国学院大戦の途中から再開となった大会2日目も、思うようには進まなかった。国学院大戦での敗北からスタートした2日目は中大、法大と対戦した。

明大のサーブから始まった中大戦ダブルス初戦では辻花陸(営3Ⅱ能登)の左右に相手を翻弄(ほんろう)する動きや上田泰大(商2Ⅱ尽誠学園)の相手の強烈なフオアハンドに合わせるボレーなどの多彩な攻撃を展開したが、中大のパワーあるストロークに苦しみ敗北を喫した。2番手の大辻伸彬(農4Ⅱ尽誠学園)・金山勇波(営4Ⅱ霞ヶ浦)の副将ペアは後衛・金山の攻撃で崩し前衛・大辻のボレーを決めるなど息の合った攻撃を仕掛けタイブレークまでもつれ込んだが最後は相手にリターンをボレーで返され惜敗した。続く3戦目のシングルスには主将の米川結翔(商4Ⅱ尽誠学園)が出場。深いボールを打ち込み攻撃的なブレースタイルをとるが、スマッシュなどの決定機にミスを犯して敗北してしまう。ここまで3連敗と悪い流れを断ち切りたい4戦目に出場したのは岡田侑也(農2Ⅱと

わの森三愛）・中村悠峰（宮2Ⅱ能登の2年生ペア。前衛2人の超攻撃的フォーメーションから繰り出されるボレーの嵐で相手を圧倒し勝利した。このまま流れに乗り

男子1部リーグ	早稲田	日体	法政	中央	明治	國學院	勝率	順位
1 早稲田大学		1	2	2	③	⑤	2/5	4
2 日本体育大学	④		③	④	③	1	4/5	1
3 法政大学	③	2		③	④	④	4/5	2
4 中央大学	③	1	2		④	④	3/5	3
5 明治大学	2	2	1	1		③	1/5	5
6 國學院大學	0	④	1	1	2		1/5	6

たい5戦目のペアは藤崎広大（法1Ⅱ尽誠学園）・半澤寧大（農3Ⅱとわの森三愛）のレフティペア。「左利き同士で難しかったが、どうすれば相手が嫌がってくれるかを1試合目は2人でよく考えて話し合って実行することができた」（藤崎）と話すように積極的な相手のスキをつくり出す攻撃を行い、スマッシュのチャンスは何度も生み出した。しかし終盤になるとミスが目立ち始め3Ⅱ5で敗北した。

春季リーグ最終戦の対戦相手は法大。初戦から苦戦を強いられ、なんとか1勝したい最終戦に出場した岡田・中村ペアが激闘を繰り広げる。岡田のカットサーブが光り連続サーブミスなどで攻撃を優位に進める明大だったが、法大も粘りを見せて試合はタイブレークに突入する。それでも中村のスマッシュや岡田のボレーがさく裂して7点を取り明大はうれしい1勝を手にした。

女子部は昨日の3試合は全敗と苦しい状況で迎えた2日目。午前中の早大戦にも敗れてあとがない立大戦でチームは躍動した。西川なつみ（政経2Ⅱ昭和学院）・北川

女子1部リーグ	日体	國學院	東女体	明治	早稲田	立教	勝率	順位
1 日本体育大学		③	③	③	1	③	4/5	1
2 國學院大學	0		②	②	③	③	4/5	2
3 東京女子体育大学	0	1		②	0	②	2/5	4
4 明治大学	0	1	1		1	③	1/5	5
5 早稲田大学	②	0	③	②		③	4/5	3
6 立教大学	0	0	1	0	0		0/5	6

アンナ璃咲（商3Ⅱ京都光華）ペアが4Ⅱ0のストレート勝ちで初戦を飾ると、続く2試合も勝利し1勝を挙げた。昨年度は最下位に終わったが今年度は順位を一つあげ5位で春季リーグ戦を終えた。

〔佐藤比呂〕

関東学生選手権大会

◆5月13日・14日（白子サニールテニスコートほか）

西山・青松、前田・中谷が3位入賞。インカレの予選会を兼ねている大会であり、出場枠男女とも3チーム獲得した。

女子

ベスト16

日高・大野

準決勝

西山・青松4Ⅱ⑤天間・左近（日体）

前田・中谷2Ⅱ⑤庄司・高嶺（國學院）

男子

1回戦

貝瀬・大石

2回戦

是枝・半澤、藤原・大滝

3回戦

米川・上田、金山・大辻

4回戦

中山・佐藤、間庭・木内

5回戦

辻花・藤崎

小宮・中原

中村・岡田



全日本シングルス選手権

◆5月18日、19日 会津総合運動公園

明治大学からは男子6名、女子4名が出場。男子の米川と女子大野が数々の強敵を破り準々決勝に進出した

女子

4回戦進出

青松淑佳2―④中谷ももこ（須磨学園）

前田梨緒④―2大橋玲雨（三重高校）

中谷さくら④―1小松崎葉代（ダンロップ）

大野葉④―2福田麗優（ワタキューセイモア）

5回戦

前田梨緒④―1佐藤日香莉（東芝姫路）

中谷さくら④―3原口美咲（ワタキューセイモア）

大野葉④―2藪内祥子（太平洋工業）

6回戦

前田梨緒1

中谷さくら2―④那須晴帆（アドマテックス）

大野葉④―2高橋悠（どんぐり北広島）

準々決勝

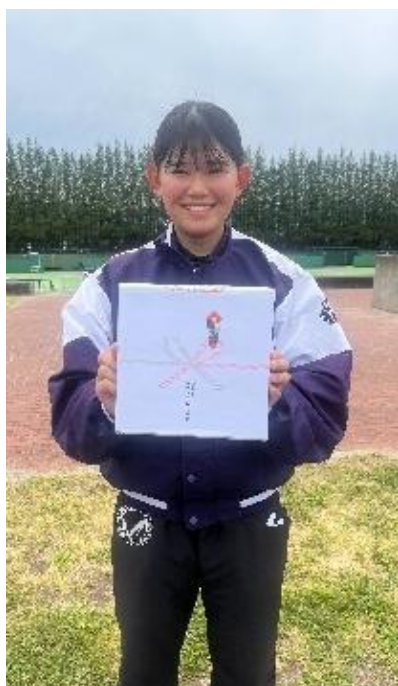
大野葉2―④前川愛生（広島翔洋）

男子

2回戦進出

辻花陸、岡田侑也、藤崎広大、木内陸人

4回戦進出



全日本ミックスダブルス選手権大会

◆6月10日・11日 熊本県民総合公園テニスコート

明治大学から男子2人女子3人が出場。前田・上松（NTT西日本）が優勝し、前田は日本代表入り！

船水（稲門クラブ）・中谷も3位入賞

男子藤崎は日体大高橋と組んで出場。リーグで1勝したもの

の、田辺・山根（ヨネックス新潟・ヨネックス）に2―④でリーグ敗退となった。あ

この3チームは予選リーグ戦を突破する

も決勝トーナメント

1回戦で米川・青松組が内本・吉田（NTT西日本・ヨネックス）に

2―④で敗退。

船水・中谷組は準決勝に駒を進めるも、

上岡・久保組（Urise・ナガセケンコー）に2―④で敗退

した。

前田・上松組は決勝

トーナメント準々決

した。

前田・上松組は決勝



日本ソフトテニス連盟HPより引用

東日本大学対抗競技大会

◆7月13日～17日 東日本大学対抗競技大会・東日本学生選手権大会（千葉県白子町サニーテニスコートほか）
男子はAチームが今シーズン初タイトル！
女子は準決勝で國學院に敗れ、3位に終わる。



男子
3回戦進出
明治大学C
貝瀬・大石、是枝・半澤、藤原・大滝・中山・佐藤
ベスト16
明治大学B
辻花・藤崎、小宮・中原、間庭・木内
準決勝
明治大学A③―2日
本体育大学A
中村・岡田④―1大
村・比屋久
金山・大辻②―④増
田・竹田
米川・上田①―④四
位・津島

女子
準決勝
明治大学①―③國學院大学A
前田・中谷②―④庄司・高嶺
武田・北川②―④丸他・濱島
西山・青松④―3久保田・原
西山・青松③―④庄司・高嶺
決勝
明治大学A③―1日体育大学B
金山・大辻①―④根岸・福島
中村・岡田④―1野口・関根
金山・大辻②―④吉田・端山
米川・上田④―2岩田・安部
中村・岡田④―3根岸・関根



東日本学生選手権大会

◆東日本学生選手権大会
7月15日、16日

男子米川・上田が3位入賞！

男子

2回戦進出

是枝・半澤、貝瀬・大石、藤原・大滝、小宮・中原

3回戦進出

中村・岡田、中山・佐藤

4回戦進出

間庭・木内

5回戦進出

辻花・藤崎



ベスト16
金山・大辻
準決勝
米川・上田④―⑤浅見・安達（早稲田大学）
女子
ベスト16
日高・大野、武田・中谷
ベスト8
西山・青松

東日本学生シングルス

◆東日本学生シングルス選手権大会 7月17日

男女とも入賞を逃す男子

- 1回戦 大石征治、大瀧展功
- 2回戦進出 中山秀也
- 3回戦進出 是枝元希
- 4回戦進出 岡田侑也、藤原知洋、間庭 堅人
- 5回戦進出 金山勇波
- 女子
- 2回戦進出 日高里歩
- 3回戦進出 大野菜、中谷さくら
- 4回戦進出 西山なつみ
- ベスト16 青松淑佳、武田美咲

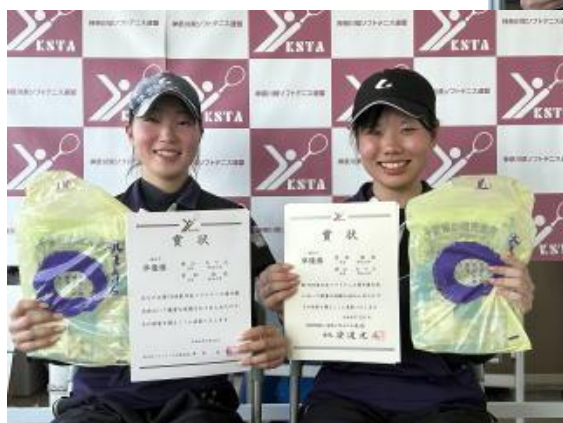


◆7月20日、21日 千葉県白子町サニーテニスコートほか

男子6ペア、女子4ペアが出場。女子は同行対決を制した前田・中谷が見事優勝！

男子米川・上田、西山・青松が準優勝！

男子
1回戦 小宮・中原
2回戦進出 間庭・佐藤
3回戦進出



辻花・藤崎
4回戦進出
中村・岡田
5回戦進出
金山・大辻
準決勝
米川・上田④-0佐藤・山口
(ベスト)
決勝
米川・上田3-④矢野・端山
(早稲田)
女子
3回戦進出
日高・大野



4回戦進出
武田・立木(國學院)
準決勝
西山・青松④-③小林・吉田(ヨネックス)
前田・中谷④-③細田・村上(日体大)
決勝
前田・中谷④-②西山・青松

東日本選手権

東日本学生2024

北本男子監督

団体戦、優勝🏆米川キヤプテンついに、一勝。

昨年、2位で第二シードからのスタート。初日ベスト16まで出したが、明治A、明治Bが勝ち残る。特に接戦をものにしたBの勝利がチーム全体に元気を与えたと思う。順天堂Aに辻花藤崎が2勝して勝ち、日体大Dに小宮中原が2勝して勝ち残る。この日体大に対する勝ちが明治Aの日体大A、Bに対する勝ちに繋がったような気がする。流れの良さが何で生まれたかはわからないけど、全員が試合に出られる緊張感があったかな。まあ、練習も出来た。一週間前に静岡県成年男子が練習試合に来てくれたこともプラスだったかな。豊田コーチの指示で各部長が自分の仕事をまずまず出来ていたかもしれない。元気が出てきたのが嬉しいです。

女子前田梨緒が日本代表として世界選手権に出場！

国別対抗で準優勝！

世界選手権 9月4日～9日 韓国・安城市

シングルス ベスト8

ミックスダブルス ベスト16

前田・内田(NTT 西日本)



全日本大学対抗選手権

9月14日、15日

男子 沖縄総合運動公園ほか
女子 奥武山庭球場ほか

全日本大学対抗選手権（以下、インカレ）、昨年に続いて2連覇を狙う男子部は、準々決勝で日本体育大学相手に最終戦にもつれ込む熱戦を見せるが惜しくも敗退。
女子部は昨年の3位から順位を上げたところだったが、日本体育大学を最終戦まで追い込むも敗退した。

◆男子

準々決勝

明大2―③日本体育大学

米川・上田④―2竹田・増田

中村・岡田1―④四位・津島

金山・大辻1―④片岡・黒坂

米川・上田④―3四位・津島

米川・上田2―④片岡・黒坂





男子部は昨年度全国2冠を達成し、今年度の東日本大学対抗選手権（東日本インカレ）でも優勝を果たしている。その圧倒的実力を見せつけ、初戦の金沢大戦、第2回戦の天理大戦は危なげなく勝ち進んだ。大学対抗1日目最終戦の相手は中京大。1番手の金山勇波（営4Ⅱ霞ヶ浦）・大辻伸彬（農4Ⅱ尽誠学園）ペアは金山の力強い

東日本インカレで優勝を決めたペア。前衛同士という特色を生かし、2人とも鮮やかなボレーやスマッシュを繰り出し相手を圧倒して勝利を重ねた。3番手には大将である米川結翔主将

ストロークと、大辻のスキを与えないスマッシュやボレーで着実にポイントを重ねる。雷雨により試合が中断するハプニングにも見舞われたが、明大を勢いつかせる一勝を挙げ1番手としての役割を完璧に果たした。2番手の岡田侑也（農2Ⅱとわの森三愛）・中村悠峰（営2Ⅱ能登）ペアは昨年度のインカレ、今年度の

（商4Ⅱ尽誠学園）・上田泰大（商2Ⅱ尽誠学園）ペアが出場。「去年優勝したプレッシャーから背負うものが大きかった。普段考えないようなことを考えてしまったらしい、プレーの質が落ちてしまった」（上田）と振り返るようにミスが目立ち、相手にポイントを与えてしまう。「去年の優勝校である自分たちに、相手が向かってくる勢いがすごかった。それに少し押されて、こちらが受けてしまう場面も少なからずあった」（米川）と、コースを突いたサーブやストロークにも苦しめられ、1ゲーム差で惜敗。流れを中京大が握ったま



ま、準々決勝への切符を懸けた戦いは2次戦へ。「中京大にもいい選手がたくさんいるとは知っていたが、大将ペアが負けてきたのは驚きだった」（金山）と予想外の戦いを迎えることとなった金山・大辻ペア。しかし「最後のインカレということもあり取り組み方や試合に対する思いが、個人的にはいい仕上がりにつながったと思う」（大辻）と優勝への強い思いを持ち合わせた4年生ペアが、疲労を感じさせない熱いプレーを見せた。正確さが光る大辻のボレーや金山のストロークで相手を翻弄（ほんろう）し、流れを再び明大が引き寄せる。大将撃破の勢いに乗っている中京大も粘り強くポイントを重ねるが、最後は大辻のスマッシュで明大が勝利を収めて準々決勝へ駒を進めた。

準々決勝の舞台で明大を待ち受けていたのは、今年度王座を獲得した日体大。この試合では1番手として米川・上田ペアが出場した。「ここで一勝を挙げて、チームに勢いづけたいと思っていた」（米川）。その言葉通り、ボレーや相手のスキを突いたショットを積極的



勝目が求められる3番手を担うのは金山・大辻ペア。「挑戦者という気持ちと、相手が格上だと思いう持ちは似ているようで全然違う。自信と、向かっていく気持ちという精神的な部分がもっと強気でいけたら良かった」(大辻)。日体大のエース格である片岡・黒坂ペアの勢いに押し負けるような時間が続く。好プレーを何度も繰り返しポイントを重ねる場面も見られたが、日体大の方が一枚上手だった。金山・大辻ペアも敗れ、2次戦が幕を開ける。任されたのは米川・上田ペア。

第1ゲームから米川のサーブやストロークがさえ渡り、先に流れをつかむ。しかし日体大もそう簡単に勝たせてはくれない。あと1ゲーム取れば、というところで猛攻が始まった。ボレーやスマッシュ、ライン際への正確なショットに苦しめられ、3-3まで追い付かれてしまう。緊張の第7ゲーム目、上田のボレーで明大が先制。その後は一進一退の展開が続くも、明大がリードを守り抜いて勝利をつかみ、勝2敗に追い付いた。そして勝負は3次戦へとつれ込む。明大の命運は連戦となる大将の米川・上田ペアに託された。対する日体大は片岡・黒坂ペアが出場。「この2人に勝つためには、とにかく先に勝負をするしかないと思ってた」(上田)と、強気なプレーで第1ゲームを明大が

先取。その後は交互にゲームを取り合う白熱のシーソーゲームが繰り広げられた。同大会のダブルスでは4ゲーム差で敗れた片岡・黒坂ペアに対し1ゲーム差と食らいつくも、1歩及ばず。3時間を超える大熱戦の末、明大はベスト8でコートを去った。

王者だからこそ見られる景色も、王者として挑戦者を迎え撃つ難しさも知ることとなった男子ソフトテニス部。この経験は誰しもができるものではない。今大会で味わった悔しさを糧に、紫紺の戦士たちは再び全国の頂を目指し始める。

「春田麻衣」

試合後のコメント

米川

最後のインカレとなりましたが、振り返っていかがですか。「あつという間でしたね。連覇に届かなかったので悔しい思いが大きいです。主将として一年間やり切れたかなという清々しさもあります。あとは後輩に優勝と連覇を託して頑張ってもらいたいと思います」

大辻

「4年間を振り返っていかがですか。」「一瞬でした。日本一になるという目標を持って進学して、一応

達成できましたけど、高校の時とはまたちょっと違う戦い方や戦術など、自分の知らない競技の奥深さを4年間ですごく学べたと思います。結
果にはつながりませんでした。が、テニスをより好きになって、自分がやってきたことが間違ってたかなと証明できた4年間だったのかなと思います」

金山

「後輩へ一言お願いします。」

「ポテンシャルが高い選手がたくさんいるので、うまくいけば絶対優勝できると思っています。後悔がないように、全力でやり切ってほしいです」

上田

「大学対抗の結果はどう受け止めていますか。」

「連覇を目指していたので悔しいという一言が正直なところなのですが、そこで終わらせてはいけません。ベスト8という結果を受け止めて、これからの秋リーグや来年度の東インカレに向けて、またチームでもう一度目標を確認して優勝を狙っていくために切り替えもしていかないといけないと感じています」

岡田

「4年生から学んだことはありますか。」

「ダメなところはしっかりダメって言ったり、キャプテン(米川主将)のように背中で見せてくれるところを真似したいと思っています」

「一番はフットワークと体力面です。技術はもう毎日練習するしかないです。一年間トレーニングもよりしっかりしていないといけないと思っています」

中村

「今後に向けて強化したい部分はどこですか。」



◆女子 準々決勝

明治③―1福岡大学

前田・中谷④―3西村・田崎
日高・大野③―④佐々木・大川
西山・青松④―2原野・武田
前田・中谷④―2佐々木・大川

準決勝

明治②―③日本体育大学

前田・中谷④―1天間・左近
西山・青松③―④吉木・高橋
日高・北川②―④細田・村上
前田・中谷①―④細田・村上

「インカレ制覇を目標にやってきた」(前田梨緒・商1須磨学園)と意気込み臨んだ今大会。1日目、2回戦からの登場となった



明大は佛教大を相手に3―0とストリート勝ち。丁寧なラリーを繰り広げ、相手のミスを誘う形でインカレ制覇に向けて好発進を見せた。3回戦の青学大戦では先鋒の武田美咲(政経4)東北文教大山形城北・北川アンナ璃咲(商3)京都光華)ペアが黒星を喫するもその後は破竹の3連勝。勢いもそのままに危なげなく白星を挙げ、2日目の準々決勝へと歩を進めた。

2日目、準々決勝の相手は福岡大。先鋒の前田・中谷さくら(政経1)須磨学戦)ペアが流れを持っていかれる場面があり拮抗(きっこう)した展開が続くも、相手の体制を崩す果敢な攻めを見せ4―3で辛勝。隣のコートで同時並行で行われた日高里歩(法4)昭

和学院)・大野菜(法2)昭和学院)ペアもこの勝利に続いたかったが、タイブレークにもつれ込む接戦の末惜しくも敗戦。続く西山なつみ(政経2)昭和学院)・青松淑佳(政経3)昇陽)ペアが勝利を収めるも得失点差のルールから試合は2次戦へ。2次戦を託された前田・中谷ペアはラインギリギリのショットに苦しみながらも、息の合った抜群の連携を披露し見事勝利をもぎ取った。

多くの観衆に見舞われながら行われた準決勝の相手は昨年度、



そして今年度も優勝を果たした王者・日体大。ここでも前田・中谷ペアが幸先良く先勝を上げる。続く西山・青松ペアは序盤リードを奪うも、後半にミスが続く巻き返される展開に。タイブレークまでもつれ込むもわずかに及ばず黒星を喫する。続く日高・北川ペアも敗れ試合は2次戦へ。準々決勝と同様に任されたのは団体戦こまで無傷の前田・中谷の一年生ペア。下級生らしからぬ落ち着いたラリーを展開し、白星を勝ち取る。勝ち点並び試合の明暗は3次戦に託される形に。任されたのは連戦での出場となる前田・中谷ペア。「疲労はどんどんたまっていた」(前田)と万全とは言えない中での一戦となった。前



「インカレ制覇まであと2勝と視線のすぐ先まで迫った目標。『去年も3位でやはり悔しい気持ちはある。ずっと目指してきたのは優勝なので来年きちんと優勝できるように頑張りたいと思う』(前田)。この悔しさを胸に。新チームで迎える秋季リーグ戦での躍進に期待だ。

【伊原遼太郎】

試合後のコメント

前田

「インカレはどういった気持ちで臨みましたか。」

「インカレの前に世界選手権に行っていたのですが、そこでも疲労がたまることを考えていました。でもやはり1年目から3冠を目標にしていました」

「今後に向けた意気込みをお願いします。」

「チームで団結してチームワークを良くした上で、最高のパフォーマンスをみながら団体戦で勝っていきたいと思います」



青松

——日体大戦を振り返っていかがですか。

「カウントとしてはだいぶ競っていたのですが、試合内容はミスの連続という感じでした。小さなミスが続いて、二人で戦略を立てて戦い切ることができなかったです」

——今後に向けた目標はありますか。

「次の代ではキャプテンを務めるので、チーム力を上げて千葉インカレで王座を奪還すること、個人戦でタイトルを取ることが目標です」



◆全日本学生選手権大会

9月11日、12日

男子 沖縄総合運動公園ほか

女子 奥武山庭球場ほか

女子前田・中谷が準優勝！

女子

5回戦進出

日高・大野

ベスト16

武田・北川・西山・青松

準決勝

前田・中谷⑤1寺澤・相原（國學院）

決勝

前田・中谷4―⑤久保田・原（國學院）

男子

2回戦進出

貝瀬・大石

3回戦進出

是枝・半澤

4回戦進出

中山・佐藤



5回戦進出

辻花・藤崎・小宮・中原・間庭・木内

6回戦進出

金山・大辻 中村・岡田

ベスト8

米川・上田

◆全日本学生シングルス選手権大会

9月13日

男子 沖縄総合運動公園ほか

女子 奥武山庭球場ほか

女子中谷が選手権に続き準優勝！

男子米川が3位入賞

男子

準決勝

米川結翔2―④橋場柊一郎（法政大）

女子

2回戦進出

大野菜

ベスト8

青松淑佳

準決勝

中谷さくら④―②細田美帆（日体大）

決勝

中谷さくら1―④本間友那（神戸松蔭）

JOC全日本 ジュニア選手権大会

◆10月5日、6日

広島市広島翔洋テニスコート
本学から男子藤崎、女子大野葉、
前田梨緒、中谷さくらがU20に
出場。ダブルスで前田・中谷が優
勝、大野が準優勝。シングルスで
大野が3位入賞。

男子ダブルス
2回戦進出
藤崎・初鹿(法政)

女子ダブルス

準決勝

前田・中谷④―2佐藤・高橋(東芝姫
路・日体大)
天間(日体大)・大野④―3本間・杉
本(神戸松蔭・ヨネックス)



決勝

前田・中谷④―0天間・大野

男子シングルス

藤崎広大

予選リーグ敗退

女子シングルス

前田梨緒

決勝トーナメント初戦敗退



中谷さくら
決勝トーナメント初戦敗退
大野葉
準決勝
2―④佐藤心美(早稲田)

関東学生新進大会

◆10月19日、20日

立教大学 早稲田大学 東海大学
東京経済大学 國學院大学テニスコー
ト

男子中村・岡田決勝進出するも優勝
を逃す。女子は2ペアが3位入賞

男子

1回戦

小宮・是枝、藤崎・上田

準決勝

中村・岡田⑤―4浅見・安達(早稲田)

決勝

中村・岡田3―⑤野口・黒坂(日体大)

女子

準決勝

前田・大野0―⑤天間・高橋(日体大)
西山・中谷2―⑤吉木・向山(日体大)



男女ともに白熱の戦いを繰り広げる 関東学生秋季1部リーグ戦

◆11月2日、3日

関東学生ソフトテニス秋季リーグ
戦(白子町サニーコート)

春は男女ともに5位と苦汁を飲ん
だリーグ戦。初日は悪天候のた
め、力を発揮しきれなかったもの
の2日目は男子部が初戦こそ落と
したがその後3連勝で3勝2敗と
勝ち越し。この大会を3位で終え
た。また女子部は2日目を負けな
しの3連勝で、4勝1敗の2位と
新チームとして好スタートを
切った。

試合のみ行われた。男子部は法大と
の一戦。1番手の岡田侑也(農2)と
わの森三愛(中村悠峰(営2)能登)
ペアと2番手の大辻伸彬(農4)尽誠
学園)・金山勇波(営4)霞ヶ浦)ペア
が1ゲ
ーム差で惜敗を喫する。4番手の辻
花陸(営3)能登)・上田泰大(商2)尽
誠学園)ペアは法大のコースを突い
たショットに苦しめられる。しかしそ
れを逆手に取り、際どいボールを冷





静に見極めて失点を防いでいく。接戦を制して一矢報いたが、チームとしては1-4で敗戦に終わった。

女子部の1戦目の相手は国学院大。1番手の中谷さくら(政経1)須磨学園(前田梨緒(商1)須磨学園)ペアが5-2と先勝し勢い付ける。さらにシングルの青松淑佳(政経3)昇陽と、3番手の大野菜(法2)昭和学院・西山なつみ(政経2)昭和学院ペアも続いて勝利を収め、ストレート勝ちで2戦目に進んだ。第2戦はインカレで敗れた日体大との一戦。1番手の中谷・前田ペア

は相手のスマッシュに苦しめられるも、1ゲーム差の熱戦を制し、インカレのリベンジを果たした。しかしシングルの大野と3番手の西山・北川アナ璃咲(商3)京都光華ペアも続いて敗北。1-2で敗れ、1勝1敗で1日目を終えた。

秋晴れの中、行われたリーグ戦2日目。男子部の2戦目の相手は日体大。インカレのリベンジを果たしたいところだったが、この日の初戦であったためかどの選手も風への対応がうまくできず、1勝もできずに0-5で敗戦と先行きの不安なスタートとなった。続く3戦目の国学院大戦

では、金山・大辻ペアが先勝も中村・岡田ペアが敗れ1-1で迎えたのは藤崎広大(法1)尽誠学園)。「返球を風に合わせ調整して、相手のミスを誘った(藤崎)と振り返るよう」に緩急を生かした戦い方で1ゲームも落とさず完勝を収める。続く、辻花・上田ペアも勝利し3-2でリーグ戦初勝利を飾った。4戦目の早大戦では、1、2番手が敗れ勝利に王手を懸けられる。それでも藤崎、金山・大辻ペアが連勝で意地を見せ勝負の行方は上田・辻花ペアに託された。「失点してもラケットを振り切り、風への対応の迷いを無くそうと割り切つてプレーした(上田)と序盤から積極的に強打を放ち得点を重ねる。オーバーミスも目立った



い展開に。ラリー戦に持ち込み、相手を翻弄(ほんろう)するもあと一歩及ばず敗戦を喫する。それでも、チームとしては前田・中谷ペア、青松が勝利し2-1で白星を飾った。リーグ戦ラストゲームは早大戦。「リードされたときに耐えて、流れを引き戻せる力を身につけられた。また大事な場面で取り切れるようになった(中谷)」とリードされても焦らず安定したストロークやボレーで相手のミスを誘っていく。インカレから成長した姿を見せつけ、5-1で快勝するこの勢いのまま、2、3番手も勝利し3-0とリーグ戦を3連勝で終えた。大会を通して、前田・中谷ペアの活躍もあり4勝1敗の2位という結果となった。

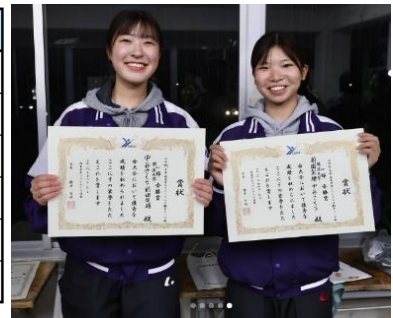


が最後は辻花の鋭角なショットが相手のミスを誘って勝利し、チームも3-2と接戦をモノにした。最終戦となる中戦では、ボレーを多用とした戦術で中村・岡田ペアが復調を見せ勝利するとチームも3-2で勝ち切った。この結果、3勝2敗の3位でリーグ戦を終えた。女子部の3戦目は東女体大。前田・中谷ペアが息の合った連携で先勝。2番手の青松も「準備してきたことを発揮できたし、天候に合わせた戦い方を考えて対応できた」の言葉通り、ストロークを打ち分け空いたコースを逃さぬ一打を見せ勝利すると3番手の西山・北川ペアも快勝で3-0と幸先の良いスタートを切った。続く4戦目の相手は立大。西山・大野ペアが序盤からリードを許す苦し

女子1部リーグ	日体	国学院	早稲田	東女体	明治	立教	勝率	順位
1 日本体育大学		②	③	②	②	②	5/5	1
2 国学院大学	1		②	②	0	②	3/5	3
3 早稲田大学	0	1		②	0	②	2/5	4
4 東京女子体育大学	1	1	1		0	②	1/5	5
5 明治大学	1	③	③	③		②	4/5	2
6 立教大学	1	1	1	1	1		0/5	6

「今日まで何度もミーティングをしてきて、チーム力を磨いてきた(青松)。お互いに高め合い、目指すは『インカレ優勝』。まだ新チームは始まったばかり、今大会で得た収穫を糧に今後の飛躍を期待したい。」
〔春田麻衣、早坂春佑〕

男子1部リーグ	日体	法政	中央	早稲田	明治	國學院	勝率	順位
1 日本体育大学		1	2	2	⑤	④	2 / 5	4
2 法政大学	④		③	1	④	2	3 / 5	2
3 中央大学	③	2		2	2	0	1 / 5	6
4 早稲田大学	③	④	③		2	③	4 / 5	1
5 明治大学	0	1	③	③		③	3 / 5	3
6 國學院大学	1	③	⑤	2	2		2 / 5	5



男子秋季リーグ戦	早	法	立	明	慶	東	勝点	順位
1 早稲田大学		④	3	⑥	⑥	⑦	4	2
2 法政大学	3		⑤	④	⑤	⑦	4	1
3 立教大学	④	2		⑥	⑥	⑤	3	4
4 明治大学	1	3	1		⑥	⑥	3	3
5 慶應義塾大学	0	2	1	1		⑥	1	5
6 東京大学	0	0	2	1	1		0	6

10月12日～13日
早稲田大学テニスコート
男女とも結果振るわず、東西対抗戦
出場を逃す

東京6大学
秋季リーグ

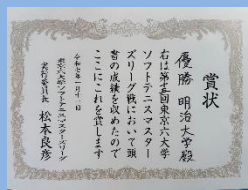


女子秋季リーグ戦	明	立	早	法	慶	東	勝点	順位
1 明治大学		②	1	②	R	②	3	2
2 立教大学	1		0	②	R	③	2	3
3 早稲田大学	②	③		②	R	③	4	1
4 法政大学	1	1	1		R	②	1	4
5 慶應義塾大学	R	R	R	R		R		
6 東京大学	0	0	0	1	R		0	5

◆11月8日～10日 有明コロシアムほか
本学から男子米川・上田、阿部(福井県)
県庁・中村、辻花・出村(國學院)、藤
崎・早見(岐阜商業高校)、女子武田・
北川、前田・中谷、西山・青松が出場
するが上位進出ならず。

男子
1回戦
阿部(福井県庁)・中村
2回戦進出
辻花・出村(國學院)
4回戦進出
藤崎・早見(岐阜商業高校)
ベスト16
米川・上田
女子
3回戦進出
武田・北川
4回戦進出 前田・中谷
ベスト16 西山・青松

全日本選手権
天皇皇后賜杯



2023年1月13日(土)
東京6大学マスターズリーグ
二連覇達成！
助っ人4年生 金山・大辻
OBも頑張りました。
おめでとうございます。



◆全日本学生インドア
12月14日 小田原アリーナ
男子 米川・上田・女子 西山・青松、
前田・中谷が出場し、前田・中谷が見
事優勝！西山・青松が3位入賞！

インドアシーズン
女子 前田・中谷が
連続入賞！

男子
米川・上田 予選リーグ敗退
女子
準決勝
前田・中谷⑤ー0 西山・青松
決勝
前田・中谷⑤ー2 岩元・本間(神戸松
蔭)



◆ルセントカップ東京インドア
1月19日 東京体育館
準決勝
前田・中谷②ー⑤ 高橋・岩倉(どんぐ
り北広島)



◆全日本インドア選手権大会
2月2日 Asaアリーナ大阪
準決勝
前田・中谷⑤ー4 高橋・岩倉(どんぐ
り北広島)
決勝
前田・中谷②ー⑤ 天間・宮前東北高
校・ウタキユーセイマ



2024年度明治大学学生部長賞

ソフトテニス部が受賞！

その他、地域貢献活動、普及活動に努めました



ソフトテニスを通じた能登半島地震被災者との交流で、ソフトテニス部が学生部長賞を受賞しました。

その他、定期的な生田駅周辺のごみ拾いや、講習会やシミュア練習会に参加するなど、社会貢献活動にも努めました



東日本学生ソフトテニス連盟理事長 大石征治
3年間明治大学を代表して学連運営にご尽力頂きました。感謝申し上げます。

左から木下未裕さん（立教大学）日野ルさん（東京経済大学）妹さんが日野夏愛さんで我が部員です。

一般社団法人日本学生ソフトテニス連盟設立祝賀会時の写真です。3人とも卒業します。

卒業生男子4人 女子2人 先頭に立ってチームを支えてくれました！



米川結翔 商学部



金山勇波 経営学部



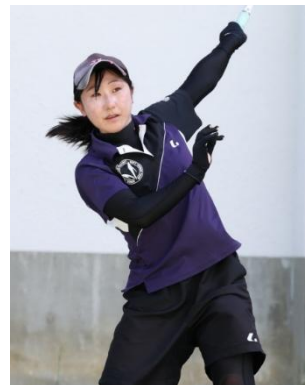
大辻伸彬 農学部



大石征治 経営学部



武田美咲 政治経済学部



日高里歩 法学部



2024年度を振り返って 北本英幸男子監督

昨年度インカレを優勝し、二連覇を目指したシーズンでしたが、その夢叶わず。昨年度の成績が良すぎたせいか、大会ごとに結果ばかりを気にして選手たちはプレッシャーに思うに思います。我々指導者もそうだったのかもしれませんが、しかし、プレッシャーの中でもがいたこの一年は、来年度に向けての大きなプラスになるはずです。思うように結果を残せなかった一年でしたが、部員たちはそれぞれに成長してくれました。部員一丸となり、来年度に向けてコツコツと研鑽を積み重ねる毎日を通して、いつか欲しいと思います。攻撃は最大の防御である。より高みを目指して前へと突き進んでいきましょう。



明大スポーツ新聞部に感謝！感謝！
いつも素晴らしい記事を掲載して頂きありがとうございます。
これからも、よろしくお願いします。
明治大学体育会ソフトテニス部一同

編集
明治大学体育会ソフトテニス部
〒214-0034 神奈川県川崎市多摩区三田 2 丁目 5417 番